

【親支援】

- ・ どんな風にプロセスをたどると受け入れできるのか→ 障害という言葉を伝えると親は拒否。  
発達のコボコボと表現、気づきを促す。

保育園（集団）での様子を伝えても、見ていないからわからない。

支援者の見立てと親の見立てのギャップがある。

→園での日々の様子を親に伝える。それを親が検診の時に持って行くとよい。

- ・ 学生 親が障害の理解がない。親に伝える技術がいる。
- ・ 親スマホで色々と調べて知っている人がいる。
- ・ 親
  - 発達障害の特性がある（入りにくい） → 親の見極めもいる。
  - 知的 → アプローチの仕方変えないといけない
  - 人格的（指摘されると拒否）
- ・ 園の先生 悪いコトを親に言いたくない 関係性こわさないように。

【学生への支援】

- ・ 小さい頃は問題なくても大きくなって問題が出てくるケースある。高校に聞くこともある。  
→教育と福祉の連携が必要
- ・ 社会に出ると求められること（就労）多くなる。

【親の支援や子どもの情報共有について】

- ・ おかしいなと思っていても、診断がないと伝えにくい。→指導をする方法が定められない。  
病院へ行って欲しいと伝えても必要性を親に説明するのに困る。
- ・ 小・中までは、子どもの情報共有しやすいが、高校に入ると途切れてしまう。
- ・ 大学に入学した後で、生活の困り感の相談がある。
- ・ 気付いてはいるも具体的な支援が出来ていないまま、過ごされてしまう。
- ・ 発達の遅れがある子に受診（診断）を勧めるには？→ 医療機関の受診を勧めてみる。  
支援者側も気にしてますヨというメッセージを伝え続ける。
- ・ 親が発達の遅れを認めない場合がある→どんどん手遅れになる。
- ・ 高校生活を送るまで、診断を受けていれば特性に合わせた対応できるが、診断がないとどうやって対応するのか困る。
- ・ 支援者としては、診断を受けた方が良いと思うが、親は「障害」と診断されると子の将来に影響があると思うため、迷うこともあるようだ。

- ・ 栃尾地域 …………… 障害のある子どもの使えるサービスがなかなかない。  
1 件—小学校特別支援学級児童—ケース会議（困り感の共有）  
保健師が把握しているケースあり。
  - ・ 中学校 …………… 小 不登校だった生徒への支援  
自己理解不足の生徒 できない自分が分かっていない→自己理解をどう深めるか？  
通常学級にいる支援が必要な人への対応
  - ・ 就労支援員 …………… 就職後、精神疾患再発の心配  
(4 件～) 知的 今まで指摘されてこなかった人——どうサポートするか？  
休憩中大きな声でしゃべれるが、場面緘黙への対応？
  - ・ 学園 …………… 通所支援 計画相談 保育所支援  
利用児童のプロフィール アセスメント対応できている プランファイル OK  
一人ひとりの発達状況把握 保護者のニーズ把握—— 日々悩んでいる、職員の一貫した対応、ほうれんそう。
  - ・ 福祉サービス …………… 生活介護  
(4 月～) 行動障害への対応難しい 心のケア
  - ・ 保健師 …………… 産後ケアルーム  
第 2 子産後 第 1 子の対応 忙しくてできない人あり  
イヤイヤ期なのかこだわりなのか迷う。
  - ・ 高等学校 …………… 二次障害への対応  
親も子も ASD  
勉強嫌い 学校大好き  
自己理解困難
- うまくいっている

UDL→個別面談→学校適応向上、授業が分かる。

部活動→活動の場

進路相談→自己理解促進

人間関係調整（大人が間に入る）
- ・ 気になる子 母へ何て伝えようか。 相談進めるといいです と断られるケースあり。  
親—受け入れたくない気持ちあり 親がいかに理解できるか 父親の理解  
親に困り感がない 家庭環境きょうだいの数等 祖父母の理解  
保護者がいかに理解してもらえるか 幼児期に家族とどう向き合うか
- 家族支援
- 理解を得られないケース—うまくいかない
- 家族の理解と本人のできること・できないこと
- 場面緘黙—医者に行くのか？ 親の抵抗感→本人を鍛えることに。 提出 物出すなど

【親の障害理解の受け入れについて】

- ・ 低学年の親は困り感がない
- ・ 親の関わり方 関わり方が分からない親が多い  
幼児期の関わり方が大切  
1才～保育園に預ける家庭が多く、他人任せ
- ・ 親・小学校まで受け止められなかった子は不登校になりやすい。受け止めが大切。
- ・ 子どもの失敗をしっかり親が受け止めてあげることが大切。 学校の教育者も。
- ・ 親は障害を否定してほしくてくるが、その子にあった関わりを見つけてあげて支援の方法をサポートしてあげる必要がある。
- ・ 発達障害のある子どもの親も障害のあることがあるため、関係機関の情報共有が大切。

◎つなぐ ライフステージの変化等

卒業後の進路について。 手帳等について親に伝えるため（グレーゾーンな子）

- ・ 思春期で大切な時期であるが、もっと前から気が付いていたのではないか。
- ・ 手帳のメリットを伝えると納得する親もいる。親が言ってもらうのを待ってる人もいる。
- ・ 高校で普通高校に入れたので、これで普通になると思ってる親もいる。
- ・ 親は黙っていて欲しいという思いがある。
- ・ 園から学校への連携がうまくいかない。
- ・ コーディネーターの役割、担任の役割をはっきり理解して支援する。
- ・ 見通しを立ててあげることも大切

【連携について…】

- 大学生 ……支援の必要な学生に対して  
事前のアンケートや就職に向けて、サポートしていきたい。
- 連絡帳 ……保護者とのやりとりが上手くいかない家庭もある。  
みたか、みてないか、それも分からない。  
電話もつながらない。コミュニケーションをとっていく難しさ。  
→何時頃なら大丈夫か。
- 中学→高校への連携 ……通う高校が決まったら…

障害のある子の支援

- ・ 子どもにとって何が1番良いかを考えて
- ・ 支援できること、できないことはある。特別支援学級？学校？

◎診断名のついた中・重度の方は早目に対応できる。

× ・ 困っているのに手助けできない子が沢山いる。  
・ 高機能の発達障害のお子さんの将来を考えると在籍も考える

◎5才児 困りそうだと分析→結果

チームでとりくめる

◎検診で気付くことは可能。

課題

早期の気づきを保護者と共有し、対応につなげる

①気づきをアプローチにつなげるのが困難

・ 軽度の方、特に ADHD の不注意の方、気付かれにくい。  
・ 保育士の気づきと親の思いのズレをうめることの難しさ。保護者への伝え方。アプローチの仕方。

<うまくいった事例>

(園)

- ・ 子どもメッセージでうまくいった方法を保護者に伝え、〇〇をどうしましょうかと持ちかける。
- ・ 対応ができなかった面と良かった面を伝える。

(エピソード)

何でできないのだろうか

- ・ 保育士同志で話し合う。
- ・ 全体で話し合うことは難しい (時間・機会)

- ・ できない原因を一緒に考えてもらうようにもちかける。家での様子での共通点から悩みを共有する。

ABC 分析をきちんとして伝える。

<難しいこと>

- ・ 面談で親に伝えることにより不安にさせる。
- ・ 行動上の問題の分析

②実際の対応の困難さ

・ 相談との兼務で実際が見えにくい  
・ 未満児の共有ができない。担任不在の時の対応の共有 (土曜保育、早朝など)  
・ 診断のない指導の困難な子どもへの配慮がやりにくい

計画・支援の方向

(学校)

- ・ 就学時検診でいきなり不安とおどろき  
↳ 幼小連携  
小の Co が面談をする  
保幼が言わなくてもよい

- ・ 丁寧に引き継ぐ

・ タイミング

・ 困った子→「困ってる子」だと理解していくように伝える。

・ 保護者との人間関係を気付いて繰り返し伝えていく。アイメッセージで。

うまくいっていること

- K …………… ・ 対人トラブルなど他園に比べて少ない。
- A …………… ・ 大学の体制が整ってきた
- U …………… ・ 子どもが不登校になって受診する子が多い。  
・ インターネットとかで見て受診するケースが増えた。
- K …………… ・ 幼児期のスクリーニング～フォロー体制が  
専門医がいることにより充実した。  
・ 関係者間の連携がスムーズになった。

改善したい

- ・ 虐待疑いの家庭⇒関係者が提案したことをいつも「もうやった」と言われ、はねかえされる。即効性を求める親「ここに行けば改善する」みたいなどころを求められ、手詰まり感を感じてる。
- ・ 障害に対する知識が不十分。正常な発達が分からない。
- ・ 問題のある学生が臨床に出た際の問題行動をどう支援したらよいか。
- ・ 親の理解が不十分…教員としてどう接したらよいか。
- ・ 施設が狭い
- ・ 障害によって困り事が違う。
- ・ 状態が急変した人のケース対応
- ・ 就学後のフォロー体制

- ・ 村上市 0～39歳までの気になる人を対象にした会議（虐待・不登校・引きこもり）PHN、保育士、教員、民生委員などが集まる。家族全体の情報交換ができる。引きこもりなどは地域住民から声がかかる。地域格差はある。
- ・ 佐渡市 子ども若者センターがある。中学校に1人はスクールカウンセラーがいる。不登校の子はアフタースクールがある。そこに行けば単位がとれる。佐渡には1つしかない。地活もやっているので大人になっても通っている人がいる。

虐待家庭



【保護者対応】

三条市

各園に発達支援コーディネーターがいる。

保護者の方々に気付いて頂けるように。

- ・ 年中の時に面談をする。絵本を読んだり、ごっこ遊びをしたりして、様子を見てもらう。
  - ・ 各自声を掛けたり、保健師さん等と相談をして対応したり、クラスでの様子を伝えたりしていく。
- 
- ・ 発達・参観を年に2回する ※1回15人まで
  - ・ 何事もなければ良い。何かあるようだったら、目標を立てたり、保護者の話を聞いたりしていく。
  - ・ クラスの保育士がコーディネーターとして記録をとる。

【保護者（親）とのかかわり方】

保護者の方との関係性を築くには、どうしたらいいか？

成功体験は？



たとえば ↓

- ◇ 保育園での様子を具体的に伝えていく
- ◇ 行事等を通じて、保護者に伝えていく（次につなげるための案を話したり）
- ◇ すると家での様子も教えてくれるように
- ◇ “家での過ごし方とか教えてください” という話をしていく。関わり方とか。
- ◇ 担任と保護者の人との関係性大事。次につなげていける。

- 
- ◇ 信頼関係を作る。
  - ◇ 大人だけでなく、子どもとも！！
  - ◇ 親の困り感がない。
  - ◇ 母と父とで取り組み方が違う

- ・ 保健師 ……保護者からお話しをしたいと言われないと、次の支援へ行けない。(加配等) ←三条だけ？
- ・ 燕市では ……園⇔保護者との話し合い。保健診断だけでは全て分からない。

保護者に困り感がない(まだ小さいから分からない)(保育園)

ストレートに言えないから、どのように言ったら伝わるか。関係を壊さないような言い回し。

園から保健師に情報が流れても、保健師から保護者に園での様子を話すのは気が引ける。

テーマ

【お母さん、保護者に気付いてもらうための関わり方】 早期発見につなげるためにも

燕市 ……0才～電子カルテ 園→学校 みんなで子どもを見ていこうというシステムを作っている。

園で認めないまま学校に入った場合は…

(数年かかっても子どものために支援の必要性を訴え続けるのは必要)

- ・ WISC など
- ・ スクリーニング検査、行動、聞き取り

注意深く担任が見取り、継続的に話し合い、保護者と信頼関係を築きながら問題行動を未然に防いだり、早めに見つけ、対処する

保護者が「障害児を持ったことでの」苦労していることもあり、すぐに受け入れるのに時間がかかる。母子ともに支援をしていかなければならない。

未就学児の療育

療育は必要ないと思っている保護者

親あつての子どもなので、親からの働きかけ

弥彦 ……ペアレントトレーニング

どう子どもを育てたら良いか、年に何回か集まる会を開催。

専門学校入学後、生徒の中に問題を抱えている子がいる

対処 個別対応、家族と面談すると昔からそうであった。  
高校卒業までにできたのでと、受け入れてもらえないケースもある。  
小・中と言われたけど、治ったという親もいる。

教師がカウンセリングなどする。  
就職前に情報をもらわないと困るケースも多い。

困っている事

- ・ 一般の社会に出て行けるように指導する。
- ・ 1回失敗してしまった場合、次に行く事を躊躇してしまう。
- ・ コーディネーターは3年生しかつかないため早期となると難しい。
- ・ 高校自体が学力が低いため、ASDなのか、ただの学力不足なのかが分からない。
- ・ 体育の授業で説明しても要求された事が出来ないのはどうなのか。
- ・ 物を壊す、自傷行為、暴力など
- ・ 問題行動をおこしたら、ペナルティをしていたが、今は出来た事に対して褒める・・・など。
- ・ 方向性の違う職員
- ・ 母親が困って不穏になる。

～うまくいっている所～

- ・ 特別支援コーディネーターが学校にいる。
- ・ 問題行動を起こしても、約束カードなどを作ったり、抱きしめたりはしてはいけないと言われていたが、今までの生い立ちを見て、愛情が足りないと感じ、抱きしめたりなどして、今は問題行動を起こさないようになった。
- ・ PSWにつなげられる。

テーマ【保護者支援】

言葉を選びながら伝えているので、どこまで伝わっている？

親にも困り感を持ってもらうには？

3才児だが、1才半レベル、オムツもようやくはずれる。運動面でも遅れている。うがいも最近できるようになった。親は個性だと思っている。本児なりに成長していると言っている。子どもには強制はしたくない。

ひよこ教室には行ったことあり。

困っていることが親にはストレスにはなっていない。

**親自体が支援を必要とすることも多い。**

Q. 親支援はどうしたらいいか

A. その子のためだということを伝えている

二次障害の怖さを知らせる

その子に合った支援、道筋を作ってあげられるには…

伝える時には、悪いことばかりは言わない。

毎日伝えず、その子の目標設定を低くし

毎日会えない保護者なのでTELをして「良いところも伝えたいので…」ときっかけを作り懇談する。

良いことを伝えてから、こういうこともあったと伝える。

家での様子も聞いて、職員間でも報告をして支援を考える。

保健師さんの気づきで知的遅れを早期に気付いてくれた。

年中になってから小児科に相談→もっと早く相談してくれれば…と言われる。

先生によっては診断名をつけさせない先生もいる。

→その子が生活しやすいようにと思っているのに…こちらとの思いの違いがある。

線引きは難しいかもしれないが、先生の思いも

【親へのはたらきかけ】

- ・ 家ではほっとしている親、作業所でのことに興味がない親が多い。
- ・ 親の受容の仕方→“自分の子は恥ずべき状態だ”  
↓ 子どもが「見てもらいたい」と思っても親は「見せたくない」→子どもが人の目にふれない  
良い状態だったら互いにもっと良かったのでは？→子どもころの発達のおくれの受容の支援
- ・ 母が子どもを支配（母がヘルパーを拒否）
- ・ 学校では子の支援と同じくらい親を支援

ディスカッションテーマ「あなたは何に困っていますか？」

保護者にどのように伝えていくか等、出題  
みんなに共通は？

⑨への伝え方は難しい

- ・ 高校では？
  - ・ 小・中で伝達済
  - ・ 学習成績が理由になりうる
  - ・ 保護者・本人が特支拒否
- ・ 保護者にも傾向があたりするのでは？
- ・ 入所施設は？ ……………家の人の受けとめきれない時もあり  
家と施設での姿の差。
- ・ 集団に入った時の行動差からわかってもらうのが一番支援につながるタイミングだと思う。
- ・ 特支高等部のすごさを伝えては？
- ・ 高校進学で名前があがってくる子も多い。
- ・ 特支見学…訓練を見せたかった。
- ・ 医療へのかかりやすさ…初回のとりにくさ
- ・ 健診の場だけでなく、なんとかつながっていこうという姿勢。
- ・ 医療の必要性…服薬の必要さ



「テーマ」親支援→どこがする？ 誰がする？

○保護者（親）「もう少し様子をみたい」→いつまで？

認めたくない？（気づいているけど） どこに困っているか。

どう気づきを促していくか

どこまで踏み込むか

どうつなぐか

親の 受け止め

捉え方

○家庭にどこまで入っていくか

○年齢は？

切れ目ない支援 行政などで。

保育園

↓

小学校

↓

中学校

保護者への理解——自分が否定されたようにとられる人がいる。

- ・ 自校の中で解決しようとする問題があるので、通級の先生にも来て見てもらい第三者の先生に話してもらおう。
- ・ こちらの言うことは理解できているが、伝えられない子——どこへ相談進めていいか
- ・ 生活面に遅れのある子 → 【親は他の子との違いがわからない】
- ・ 自己理解

こちらへ来てもらい、集団生活を見ると気づける。  
困ったときの支援の仕方を相談しあえばいい。  
目標点の設定を保護者・本人と話し合う。  
就学相談（保育園→小学校）  
数年後を思い描かせ、どうなっていたいかをイメージさせる。  
聞いてほしい、保護者は30～40分話すが…  
加配を付けてもらうために気になる子を集めるクラス



いろいろな面でおくれ、泣いてしまう。パニックになる。サポートばかりしていると本人のスキルアップにならない。「出来た」ということばかりが伝わり、その過程は見えていない。保育園では親もまだ未熟で、これからの積み重ねが大切。

【保護者への対応】

行動面・言葉面で気になる所をどう伝える？

気をつける所

学校では担任や特支コーディネーターが

- 家庭ではどうですか？くらいから
- 伝え方も気をつけないと
- 給食や授業を見に来てもらったりする

保健師

- 健診の時に保育園の保育士さんと保護者の3名で話す。

小学校に入学すると

- 作業所
  - 市の福祉保健課
- } で相談

各施設で

【保護者へ（うまく伝えられない・伝わらない）伝え方】

保護者が理解するように。  
保護者が認められない。

- 保育士は、保護者の関係性を重視すると、まず良いところを伝えていて、できないことを伝えきれない。  
→毎日の関わりないと立場が  
変わるとはっきり伝えやすい。
  - 場面、状況に合った伝え方難しい。できてきたこと伝えてるつもりでも目を向けられない人も。  
発達の傾向を伝えること難しい。
  - 言葉を選んでいると伝わらないことも。（オブラートにつつますぎも×）  
気にしている保護者へはスムーズ。
  - 気にしていない保護者へは押しすぎると敵対心。
  - 専門職の保護者は気付きつつ、探ってくる。
  - 伝える時に明確な根拠（支援が必要なことの）が足りていない。現状だけでは×。
  - 母の中に困り感がないと伝わらない。  
大きくなって児が困らないと分からないのかも…← 先延ばしはダメ！  
「今」支援することの大切さ。 成人になって、なぜ支援入らなかったのかと思う  
「子どもが困ってる」「子どものために」が一番保護者と共有できる目線。
  - 保護者と信頼関係が出来ている人を選んで伝える。
- ◇ 伝えられる人が複数名いたほうが良い。（どの人から伝えるのがいいのか選べる）
- ◇ 「子どものために」を一番伝える。
- ◇ 先延ばしは支援？・・・選択肢の一つにあがるが、良いことはひとつもない。

【情報をどうつなげるか？】

魚沼市

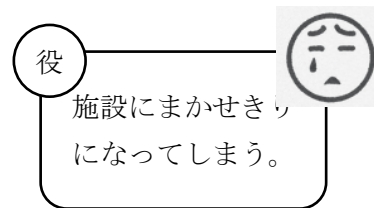
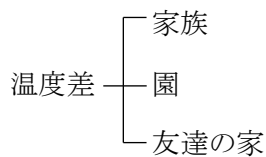
- 相談支援ノートがある。しかし、ノートのみがあってもつなげられない。保護者に渡すだけだと思う。
- 保護者と一緒に相談していく。地区担当保健師に期待したい。

津南町

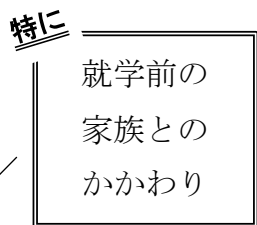
- 保健師から情報はもらえる。

堀之内

- 相談支援センターかけはしと情報とる。
  
- 個人情報—家族が同意しない場合、情報をもらえないところ、もらえるところあり。
- 相談支援センターは最初の契約の時点で同意をもらう。
- 相談支援ファイル、受け手の欲しい情報が載っていない。



ex)  
こころん  
訪問相談



進め方

話し方の工夫

日々の様子のうまく  
行っていること、うま  
くいかないことから  
話す。

日々の関わり  
が大事。

小1

- 教室が玄関かと思う  
くらいにぎやか。

区役所

- 健診で気になる子の  
親が来る。

0・1・2・3才 心配

◇ バスの中で静か

→ゲーム

◇ 絵本をスライドする

→スマホ



事実

エピソード

- 家ではその子しか見ていない。
- 比べるのがない。

何ができる何ができない

保護者対応の研修

- 友だちに手を出す子。
- 主体性を大切に  
→一斉にしなくてもいい

風潮

【本人と保護者の受容について】

受容してもらう為には（むずかしいこと）

- 自閉症の子—肉親に同様の障害がいる事が多い—そのこと等から話をつなげ、理解をしてもらう手もある。
  - 母親以外の祖父や祖母に理解してもらい、そこから母親へつなげてもらう。
  - 母が理解ある場合は支援しやすい。
  - 時期（受容）が遅くなればなるほど大変。
- △ 理解がある場合でも学年があがるにつれて、親御さんとも兼ね合いが難しくなっていきそう。
- △ 個別での支援ではいいが、大勢になるとうまくいかなくなる。

<結論>

早いにこしたことはない。初期の対応の強化がのぞましい。

【親対応】

親が困っていること

本人が困っていること

かたくなに認めない母…力で支配、家では問題ない。私の言うことは聞く。

こころんと話し合い      下の子を見てる、精一杯。祖母まかせ（祖父、母の育て方が悪い）



1. うまくいってる点

- スタッフが障害施設経験者でシステムが上手くいっている。
- 成人対象 **身体障害と発達障害との共存が難しい。**
- 利用・入所方法の話し合いができています。
- 親とのコミュニケーションができています。
- 先生方の中で共通理解をもってやっている。
- ボールを投げて取る。みんなで気付く、“指差し”等で観察。
- 精神障害 30才～40才 **障害の見逃し等**がある。

普段の気づき  
さりげない所からの報告  
困り感をうちあけてもらう  
専門家からのアドバイス

2. うまくいっていない点

- 早期発見が必要なのはわかるが、その先に進まない。もどかしい。チェックを受けるまでが難しい。
- クラス集団に入れない子がいる、他の子が真似をして笑う。
- 体力がなく、寝ころぶ。身のまわりのことができない。興味のないことはしない。
- 昔の子と比べると、体力・能力ともに下がっている。
- 職員の数不足、十分に支援してあげられない。
- 親にどう伝えるべきか、親によって受け止め方が違うので困る、悩む。
- 個別での対応が難しい。多勢の中での対応が難しい。

3. 保健師さんに**つなげていく**。 **小さなことの積み重ねが必要**、**信頼関係**

言える環境が大切

- 引継ぎの会議、システム、つながっていない。 中——×——高

4. 早期→リスクのみが伝わる

→**サポート受けられる** **社会生活につながる点** 良い点を伝える。

- 遅れた分だけ方向転換も難しい。
- 親がいつまでもサポートできない。

- どう専門機関につなげたらいいか  
親は個性として受け止めて欲しいというが、年々強くなってきている。  
深刻にはとらえていない。
- 薬に頼りたくないと言葉させない親もいる。
- 保育園でも集団生活が困難であれば、小学校へ行っても難しかった。  
3～4年生になって気付いても手遅れ。  
つなげられなくても働きかけるのは大事。
- 療育・ケースワーカーに通えば治るのか、行けば治ると思っている人もいるし、難しい。
- 保護者の受け止めで子どもの成長の伸びは違う。
- こころん相談員を交えて面談をしてみてもどうか。

それぞれの時に発見した時点で保護者に伝えることが障がい受容になる。

中学・高校

通常学級に在籍する子

能力（学力）的…OK

コミュニケーション能力

元気・明るく・コミュニケーション能力 重視

表情が出ない、反応がない

- 工場見学・面接指導を行ってはいるが、対応が難しい子は落ちる。
- 2回・3回まではチャレンジさせる。

企業側 法定雇用

発達障がい者 ……業務内容とマッチすれば続く

業務の切出し 面接 (障がいがあることをきちんと話せるか？ 手帳所持)

↓

就職時はきちんと伝えた方がよい。

実習（企業側も受け入れ準備）

中学校→高校も同じ

障がい受容（本人・親）

公表していないことで…

- 周りが困る。
- 手帳を取得する方向が望ましい

親 へどのタイミングで手帳取得を切り出すか？

学校ですすめても、児相では取れない（断られる）ケースもある。

療育手帳ではなく、精神手帳を取得する方法もある。

学力がある程度あると、コミュニケーション能力が低い＝発達障がいと受け入れにくい。

• コミュニケーション（対人関係）の問題

• 黒板 ノートが取れない

学校での問題 自殺未遂に繋がるケース

JOIN で個別相談

集団の中に入ると「個性」となってしまう。 高校…小・中学校時代に分からないものかと思う。

中学…親の受容

障がい という表現が重い VS 症 だと親に伝わらない

【現在の支援でうまくいっていないこと】

- ④ ×中1（男児：週4利用）の子のこだわり（ねこじゃらし）について。力で負けてしまう。バスから事業所までねこじゃらしがある事を知っている。  
事業所内で許可したとしても、外でもとってしまうのではないかな。  
→先につんで、事業所内に置いておくのはどうか  
→ルール（ここは○、ここは×）は入る子なのか  
→なぜ、ねこじゃらしが好きなのか（形、手触り）  
○課題に取り組むことで集中力をつけてもらう。作業中は話しかけないようにしている。本人が振り返った  
ら反応する。  
→話さず集中できる時間が増えた。
- ④ 幼い時の支援によって大人になった時が違う。年金をやりくりできるか、周りの人に挨拶できるのか。  
最低限のルール・マナーは身につけて欲しい。地域からはじかれたいために、愛される人。
- ④ 親の気づきを促す。診断はできない。  
グレーのお子さんが多い。学校の規模によってボーダーラインは違う。入学時は通常学級、2年からは特  
別支援へという子もいる。  
保護者と一緒に悩む。一緒に考える。
- ④ 社会性が乏しいため、見通しが通じない。他の人と比較して「なぜ自分はさせてもらえないのか」と言う。  
ホワイトボードに本人の発言を書き、フィードバックを行う。（ボードがなければ紙）  
紙の場合、コピーして本人に渡す。可視化。  
本人たちが障害を受容できていないので、生きやすい選択ができない。  
その人に出来ること、得意なことがある。
- ④ 土いじりが好きな子が陶芸家に。親も熱心な方だった。陶芸でお金を得られるようになった。

【早期の気づき】

小学校・中学校では遅い。 専門学校では対応できず、専門機関に任せている。  
診断（レッテル）なしに支援だけできないか。

「障がい者」という壁

自分は障がいだと思わなければ来ない。

名前を変えられないか。

新潟市

西・中央・秋葉

機関相談センター

就労支援

- 小さいうちに診断が付いていた方がスムーズに行く
- 3歳児検診後、療育相談へとつながっていく
- 大人でも使える発達診断
- 検査されているという感じが嫌な人も いかにか嫌がられるに受けてもらうか。
- どこに相談したらいいのか（職員も悩んでいる）
- 就職相談に外部の人にも来てもらい、見てもらう。
- 支援学級、嫌がる。
- 保育園の時点で保護者に問題提議を行う。
  - 先を見据えた観点で話す。
  - 必要に応じて専門機関につなげる。